

令和7年度 第2回買物公園エリアプラットフォーム会議 会議要旨

【開催日時】

令和7年6月23日（月） 18:30～20:30

【開催場所】

旭川市庁舎1階レストラン

【会員参加者（敬称略）】

赤松 昌輝、荒木 孝文、有馬 準、榎本 尚弥、草野 常幸、佐藤 祐哉、四戸 秀和、鈴木 伸治、高橋 遼太郎、知本 有里、長尾 英次、中田 崇太、蜂須賀 咲来（Web）、三浦 詩乃、柳 絵里、山田 直人、旭川市

【会議資料】

- ・ 第2回 エリアプラットフォーム会議

【会議内容】

- 1 開会
- 2 議事

※ 資料「第2回 エリアプラットフォーム会議」に基づき進行、説明。

① 社会実験「まちにち計画」について

- 合同会社流動商店（社会実験企画・実装化検討業務の受託業者）より、滞在空間の配置計画について説明した。
- 事務局より、全体のコンテンツ案について説明した。
- 各ゾーンの幹事より、各ゾーンで実施するコンテンツ案について説明した。
- 株式会社ノヴェロ旭川支社（社会実験運営業務の受託業者）より、広報企画について説明した。
- 以上の説明について、参加者から質問や意見等はなかった。

② 未来ビジョンの実現に向けた将来の空間像・ロードマップについて

（グループディスカッション）

- ゾーンごとに、将来的な空間像（2032年にどうなっているか）の実現に向けて、空間像イメージの落とし込みと、それを実現するために今からできることについて、グループディスカッションを行った。
- 各ゾーンからの発表は以下のとおり。
《ゾーンⅠ：1条周辺エリア》
 - ・ 現在、買物公園全体にロードヒーティングが入っており、冬季でも歩きやすい環境が整っているが、逆に沿道店舗が買物公園を利用しづらいのではという意見があった。
 - ・ 緊急車両通行帯を斜めに配置したり、丘や芝生など、抜け感がある形で緑を配置したいという意見があった。
 - ・ 駅から少し距離があるため、買物公園に気付いてもらえないのではという意見があり、観光案内所のような形で常設のポップアップショップを作ることや、Ashのガラス面にスクリーンを設置することで、情報発信ができるのではという意見があった。
 - ・ 既存のベンチが座りにくいという指摘があり、より座りやすいベンチやテーブルを増やすことで、滞在時間が延びるのではという意見があった。

《ゾーンⅡ：3条周辺エリア》

- 実際に昔の写真を見ながら議論したが、昔は大きな花時計がシンボルとして存在していたことや、子どもたちが描いた絵が埋め込まれていたことが確認された。さらに大きなのぼりが並んでいたことが、活気のある雰囲気を生み出していたのではという意見があった。
- 昔の賑やかな雰囲気を取り戻したいという話が出ており、片面だけでもアーケードの設置が必要という意見や、シンボルとしての花時計は管理の問題があるため、丘を設置し、周りに広場を設けて可動式のテーブルを配置することや、地元作家がデザインしたマンホールやタイルを設置することで、観光客が散策しやすくなるのではという意見があった。
- 芝生の配置については、規則性がなくても良いとの意見があり、曲線的な形や、沿道店舗へ誘導するように配置するアイデアが出たので、社会実験では様々な配置を試してみたいという意見が出た。
- ブロンズ像を復活させ、沿道店舗等の協力により磨く活動を行うことで、市民活動を生み出すきっかけになるのではという意見があった。

《ゾーンⅢ：5条周辺エリア》

- 周辺に飲食店が多いため、飲食機能をどう盛り上げるかを考えたときに、屋根が必要という意見が出たが、昔の商店街のようにはしたくないという考えから、樹木を使ったアーケードの設置や、真ん中に水の空間を設けることで、飲食を楽しめる場所にしたいというアイデアがあった。
- 周辺にホテルやフードテラスがあることから、情報発信機能を強化するために、まちの歴史を語れるとともに、周辺店舗の情報も得られるような場所にしたいという意見があった。
- 買物公園を分断する形で車道空間が存在するため、買物公園を連続して歩行できるような空間にしたいという意見があった。

《ゾーンⅣ：7条周辺エリア》

- 公園&農園をテーマに、空き店舗の近くを公園エリアにして遊具や芝生を設置し、真ん中に水路を通して農園スペースを設け、さらに7条緑道を健康促進エリアにして、自転車エクササイズや足湯エリアを設置できないかというアイデアがあった。
- より現実的な話として、8条にある手の噴水まで活動エリアを拡大し、緑の配置をさらに増やして、自由にバスキングができるエリアにしたいという意見があった。
- 各ゾーンの発表を踏まえ、アドバイザーの三浦氏、鈴木氏から、次のような意見があった。
- どのゾーンでも緑を増やしたいという意見が出ているので、今回の社会実験でも緑の配置を工夫してほしい。旭川では地場の植栽の研究も進んでいるようなので、その知見を活かすことや、緑を増やすための資金調達の方法についても可能性があると考えている。
- 緑を増やすには技術的制約が伴うが、どのような緑が必要かを考えることで多様な選択肢が生まれると思う。身近にあるちょっとした緑が街のイメージを変えた商店街の例もある。
- コミュニケーションの機会を生み出すような場がほしいという意見も各ゾーンで共通しており、農園やブロンズ像といったアイデアも出ていたので、人々が様々な形で関わり合う仕組みを取り入れることで、次のビジョンが具体化していくと考えられる。

③ その他

- 四戸幹事より、新しいプロジェクトチームについて説明した。
- 事務局より、今後のスケジュールについて説明した。

3 閉会

以上